

【Press Release】

2025/2/25

【開示に関する補足説明】 直近の開示事項に関する投資家からの問合せ及び回答

当社が、2025年1月30日付で開示した「子会社の設立及び新たな事業（暗号資産投資事業）の開始」、2025年2月14日付で開示した「国際財務報告基準（IFRS）の任意適用に関するお知らせ」「2025年3月期通期連結業績予想の取り下げに関するお知らせ」に関して、開示以降、多くの投資家から重複した質問を頂いておりますので、以下の通り開示事項に関する補足説明として以下のとおり纏めさせていただきます。

【 質問 1 】

IFRSの任意適用が業績に与える影響について分かり易く教えてください。

【 回答 】

当社の業績に影響を与える主な項目としては、「のれんの償却」と「金融資産の公正価値の変動」が挙げられます。

「のれんの償却」については、当社における一例としては、2024年12月の公開買付並びに第三者割当増資による株式会社ショーケース（東証スタンダード、証券コード3909）の連結子会社化に伴って発生した「のれん」について、日本基準においては毎期定期的に償却されるのに対し、IFRSにおいては、毎期定期的に償却されることはありません。一方で、減損の兆候の有無にかかわらず、回収可能価額と帳簿価額を比較する減損テストが必要になります。

「金融資産の公正価値の変動」については、当社における一例としては、当社のPIPEs事業において2024年6月に協力会社が運営するファンドへ出資し、同ファンドが株式会社ウェルディッシュ（東証スタンダード、証券コード2901）の株式に投資し、含み益が生じております。日本基準においては、この含み益は当期純損益には反映されませんが、IFRSにおいては、含み益（含み損も同様に）当期純損益に反映されることとなります。

【 質問 2 】

2025年3月期通期連結業績予想を取り下げた背景について、詳しく教えてください。
何らかの問題が発生しているのでしょうか？

【 回答 】

2025年3月期通期の連結業績予想を取り下げた主な背景としては、「IFRSの任意適用」と「業績予想の前提条件の大きな変化」が挙げられます。

「IFRSの任意適用」については、2024年10月29日に公表しました2025年3月期の連結業績予想が日本基準に基づいていたのに対し、IFRSでの業績予想においては、「のれんが毎期定期的に償却されないこと」や「金融資産の公正価値の変動」等を反映させて作成する必要があります。

「業績予想の前提条件の大きな変化」については、2024年10月29日に2025年3月期の連結業績予想を作成した後に、株式会社ショーケース等を連結子会社化いたしました。これにより、株式会社ショーケース等の売上高が連結売上高として取り込まれ、大幅増となることを見込まれるなど、前提条件が大きく変化しました。

これらを理由に2025年3月期の連結業績予想をいったん取り下げ未定としたものであり、外部機関による調査などにより財務数値が確定できない等の理由によるものではございません。「IFRSの任意適用」と「業績予想の前提条件の大きな変化」の影響額の精査が完了し、合理的な算定により開示できる状況が整い次第、速やかに公表させていただきます。

【 質問 3 】

暗号資産投資について、具体的にどのようなスケジュールで、どの程度の金額の暗号資産に投資をする予定なのでしょうか？

【 回答 】

申し訳ありませんが、証券取引所の適時開示ルールに則り、現時点で当社として正式に意思決定していない具体的なスケジュールや投資額について、お伝えすることは出来ません。

現時点でお伝えできることは、既に開示しておりますとおり「子会社を設立し、暗号資産投資事業を開始したこと」、および、「当社が、オルタナティブ金融資産としての特性に加え、当社が事業の軸に据える AI と密接な関係を有する暗号資産分野への投資に積極的なスタンスを有していること」になります。

今後とも、投資家の方々の声にも耳を傾け、経営に取り入れながら事業を推進して参ります。当社の手元資金、キャッシュフロー、資金調達余力等も勘案しながら、余剰資金の運用ではなく、1事業として十分にインパクトのある規模の暗号資産投資を検討して参ります。今後開示すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

以上